

白馬村民 Vol.05 フォーラム通信

2003/12/9発行

■発行：
白馬村民フォーラム（代表：渡邊俊夫）
■事務局&連絡先：
白馬村民フォーラム実行委員会
北城12958-1-1/尾川耕
Tel:72-7460 Fax:72-7465
e-mail:tagayasu@hakuba.jp

ご報告

第4回フォーラムのテーマ

「白馬村の農林業の今、そして未来（その1：農業）」

開催日時： 10月21日（月）／19：00～21：00
場 所： ふれあいセンター2F 「学習室」
参加人数： 5名（白馬村5名）
メディア： 大系タイムス

世界各国の食糧自給率、日本の食料自給率、白馬村の農業従事者の推移、耕作放棄地の推移、等々の資料を基に、限られた時間での真剣な論議がなされました。議論の結果を下記のように提言として纏めましたので、ここにご報告申し上げます。

～提言～

■田圃は魅力ある白馬村の風景である

農業は村づくりの原点である。素晴らしい自然環境に魅せられて訪れる観光客に支えられている白馬村としては、自然環境と調和しながら長い間営まれてきた農業とその生業が作り出してきた固有の風景は欠くことのできない資源であり、その保全に努めねばならない。

■農業と観光客を含む村内消費者との密なる結びつきが必要である

村内消費者、そして観光客に求められる、「安全・安価・安定」した食料を生産する農業でありたい。生産者と消費者の間での情報交換を積極的に行い、地域に密着した地産地消を基本にした食料を生産する農業として、他の産業とも連携しながら模索する必要がある。

■農業は魅力あふれる職業でありたい

耕作放棄地が増えていくことは、景観上は元より、長い歴史を経て形作られた多様に絡み合った生態系上の問題を引き起こす。村にとって貴重な資産である自然環境を保全するためにも農業の果たす役割は大きく意欲ある若者が専門職として仕事ができる体制を整える必要がある。観光立村から環境立村へと歩み出す時である。

2003年10月25日
白馬村民フォーラム
代表 渡邊俊夫

この提言書は以下のように関係者に届けました。

- ・白馬村長：村長室にて手渡しました（10/29）
- ・大北農協白馬支所長：農協にて手渡しました（10/31）
- ・白馬商工会会長：商工会にて手渡しました（10/31）

開催要項

第5回 テーマ： 「白馬村の農林業の今、そして未来（その2：林業）」

近年、里山をはじめとする人工林の崩壊危機が叫ばれています。白馬も例外でなく、ひよろひよろの杉が生い茂る山が多く見かけます。それらの山を再生させるには！森林とは私たちににとって何か？林業を新たな視点から考えましょう。

開催日： 12月15日（月）
日時： 19：00～21：00
場所： ふれあいセンター2F 「老人憩い室」（白馬村役場東側）

参加資格： テーマに興味がある方ならどなたでも、年齢・性別・在住地・国籍等に関わらず参加できます。（但し、日本語のみでのフォーラムです）

参加定員： 会場準備の都合により、参加希望者はできるだけ事前にご連絡お願い致します。（当日参加可能）

参加費： 300円（資料作成費等の経費に充てています）
フォーラム開催日以前に、詳しい資料をご覧になりたい方は、ホームページをご覧頂くか、ご連絡下さい。

●資料提供者

- ・村民フォーラム実行委員会（データ集計）

今後のテーマ予定

・第6回テーマ「“道路”と“道”のあり方とは」を予定 2月16日（月）

車で荷物や人を運ぶ、歩いて散歩を楽しむ、サイクリングをする。車椅子にとっては？お年寄りにとっては？農作業する……。車優先で作られてきた「道路」から、歩く人のための「道」にするには？ 私たち白馬の住民や白馬を楽しむ人たちの為に、「道」のあり方をみんなで考えましょう。

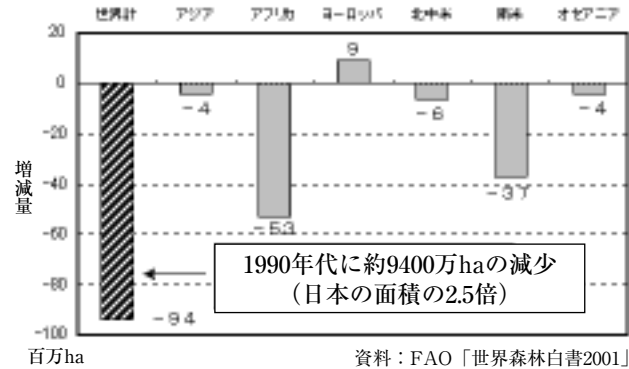
・第7回以降のテーマ 募集中！！ 4月19日（偶数月第3月曜日開催）

世界・日本の森林の現状

林野庁「平成14年度森林・林業白書」より作成

世界の森林面積変化 (2000年までの10年間計)

世界の面積の27%は森林
 ※全陸地面積

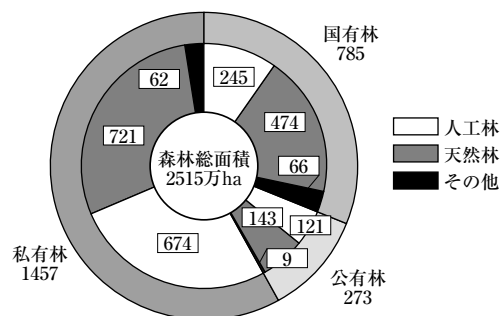


森林の減少・劣化とその影響

- ◎ 森林の減少・劣化は、**世界で水不足の状態**におかれる人口の割合が、2025年に3分の2となるとの国連の予測を**一層深刻化させるおそれ**がある。
- ◎ 化石燃料の消費による二酸化炭素濃度の増加、世界の陸地の4分の1に達している**砂漠化に拍車**をかける要因となる。
- ◎ 利便性や効率性を優先し、**森林の持続的利用への配慮を怠った木材貿易**は、過剰な伐採や違法な伐採を誘発し、**森林の減少・劣化に拍車**をかけるおそれがある。
- ◎ 我が国は、WTOの非農産品市場アクセス交渉の中で、林産物については、地球規模の環境問題の解決への貢献、再生産可能な有限天然資源である森林の持続的利用の観点から、市場アクセスの検討に当たっての**特別の配慮**等を求めている。
- ◎ 森林の減少・劣化により、タイやフィリピンのように、かつての**木材輸出国が輸入国に転じる**など、世界の木材貿易が変化している。
- ◎ 1990年代、開発途上地域の単位面積当たりの森林蓄積は、約2割減少しており、**木材供給力の減退が危惧**される。

日本の森林資源の現状

資料：全国森林組合連合会（平成7年）



日本の面積の67%は森林

森林の総面積は、この50年間ほぼ変わらない。

世界の森林は、過剰な利用によって減少・劣化しているが、我が国の森林は、**資源として利用されないことによって整備が行われず、世界の森林とは逆の形で、劣化するおそれがある。**

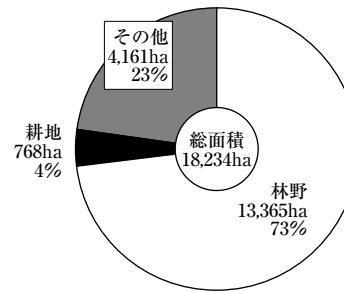
林野庁「平成14年度森林・林業白書」より

白馬村内の林業・森林の現状

※調査方法・言葉の定義により数値に差があります。

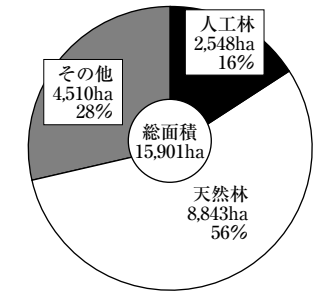
白馬村に占める林野の割合

資料：農林水産省統計情報部
 長野県統計書林業編2000



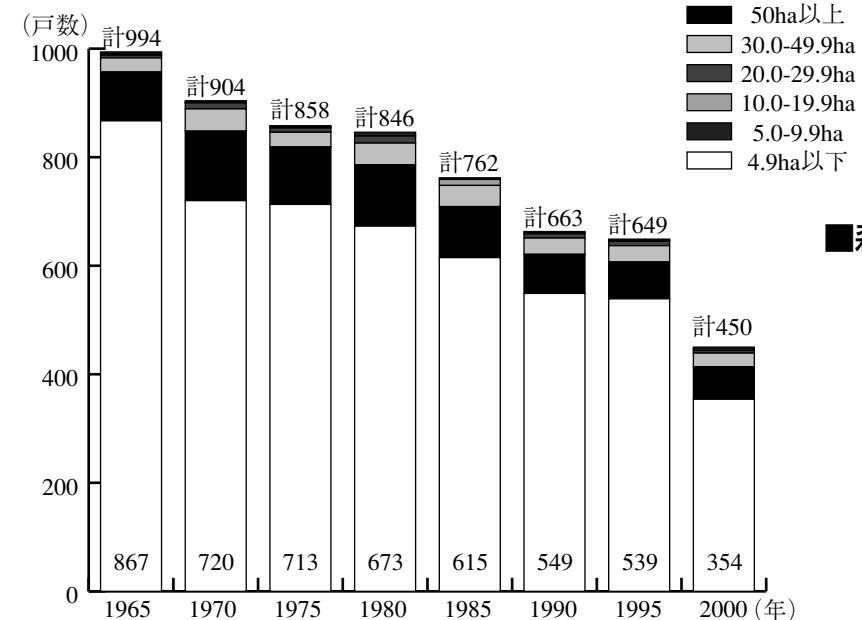
山林の分類別面積の割合

資料：農林水産省統計情報部
 長野県統計書林業編2000



山林経営面積別戸数の推移

資料：農林水産省統計情報部
 長野県統計書林業編2000



森林の公的機能

資料：林野庁業務資料

- ・ 水資源のかん養 (洪水や渇水を緩和)
- ・ 土砂流出防止
- ・ 土砂崩壊防止
- ・ 保健休養
- ・ 野性鳥獣保護
- ・ 酸素供給・大気浄化 (地球温暖化防止)

国民一人当たり どのくらいの森林が必要？

50年生のスギ1本当たり約190kgの炭素を貯蔵しており、年平均では3.8kgとなります。我が国の二酸化炭素排出量3.3億トン（炭素換算量）を国民一人当たりになると2.65トンになりますが、これはスギ697本の年間吸収量と同じになります。

